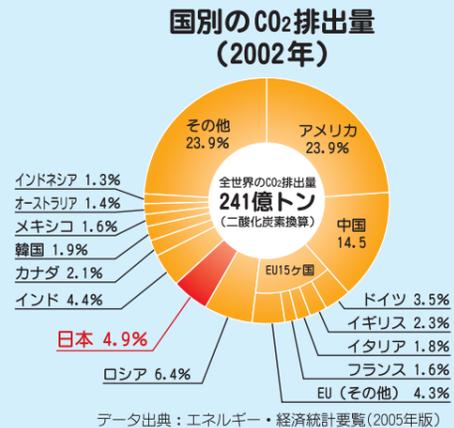


CO₂排出の実態

日本のCO₂排出量

わが国のCO₂排出量は全世界の排出量の4.9% (2002年) です。

国別のCO₂排出量では、先進国の排出量の大きさが目立ちます。



部門別のCO₂排出量

わが国の部門別のCO₂排出量をみると、家庭部門は約21.5%を占めています。

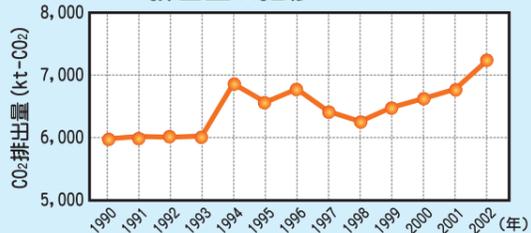
つまり日本から排出されるCO₂のうち、5分の1は私達の家庭から排出されていることとなります。

また、近年その増加は著しく、兵庫県でも1990年と比べて約20%も増加しています。

家庭からのCO₂排出量



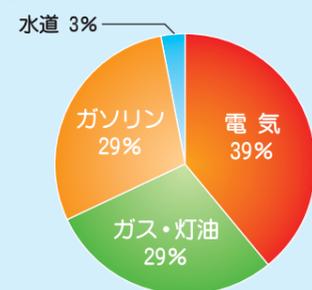
兵庫県の民生(家庭)部門からのCO₂排出量の推移



家庭部門の用途別排出量

家庭部門の用途別CO₂排出量のうち、電化製品の使用に伴うCO₂排出は約39%を占めます。家電製品からの排出量を抑えることが重要です。

家庭から排出されるCO₂の内訳



データ出典：兵庫県地球温暖化防止活動推進センター「エコチェックカレンダー2003報告」

今後の予測

現在のところ、CO₂の多くが先進国から排出されています。一方、開発途上国は一人当たりの排出量にすると先進国の1/6程度に過ぎませんが、今後人口が増加し、産業を発展させ、生活環境が向上するにつれて排出量が増加することが予測されます。温暖化を防止するには、先進国が自分たちのCO₂排出量を削減すると同時に、途上国があまりCO₂を排出せずに発展できるよう協力していく責任があります。

CO₂の総排出量

2004年度の温室効果ガスの総排出量は、13億2,900万トンです。京都議定書の規定による基準年(原則1990年)の総排出量と比べ、7.4%上回っています。

家庭部門の排出量

家庭部門のCO₂排出増加量は129万トンから170万トンに増加しました。

地球温暖化対策への取り組み

国際的な取り組み

1997年(平成9年)12月、京都において「気候変動に関する国際連合枠組条約第3回締約国会議(地球温暖化防止京都会議: COP3)」が開催され、国際的な取り決めとなる「京都議定書」が採択され、ロシアの批准により、2005年(平成17年)2月16日に発効されました。

わが国は、温室効果ガス(CO₂等6種類)の排出量を2008年から2012年の期間に1990年レベルから6%削減することとなっています。

わが国の取り組み

京都議定書の発効を受けて、2005年4月に地球温暖化対策推進大綱を引き継ぐ「京都議定書目標達成計画」が策定されました。その基本的な考え方は右に示す6つです。

つまり、行政と国民が一体となって、新しい技術による排出ガスの少ない、かつ経済的な暮らしをすることで京都議定書の6%削減約束の確実な達成を目指すというものです。

- 環境と経済の両立
- 技術革新の促進
- 全ての主体の参加・連携の促進
- 多様な政策手段の活用
- 評価・見直しプロセスの重視
- 国際的連携の確保

兵庫県の取り組み

兵庫県では、地球温暖化対策について地域での取り組みをより一層進めるため、県民・事業者・行政が一体となって取り組むためのマスタープランとして地球温暖化防止推進計画を策定しています。

また、兵庫県地球温暖化防止活動推進センターでも、兵庫県地球温暖化防止活動推進員と協力し様々な取り組みを行っています。



ひょうご環境創造協会
兵庫県地球温暖化防止活動推進センター
<http://www.heaa-salon.or.jp/ondancenter/>

発効

発効とは、条例や法律などが効力をもつようになることです。

発効以前の対策

これまでは2002年の3月に策定した地球温暖化対策推進大綱に基づき対策を進めてきました。

様々な取り組み

6%の削減目標を実現するための様々な取り組みは、インターネットで見ることが出来ます。
○チーム・マイナス6%
<http://www.team-6.jp/>
○ストップおんだん館
<http://www.jccca.org/ondankan/index.html>

ひょうご環境創造協会

人と自然が共生する21世紀の豊かな環境づくりをめざし、環境関係の測定分析事業、環境アセスメント事業、環境の保全と創造の支援・促進事業を行っています。

兵庫県地球温暖化防止活動推進センター

地球温暖化対策に関する普及啓発を行うこと等により、地球温暖化防止活動の促進を図っています。各種イベントの企画運営、環境講演会の開催、地球温暖化防止活動推進員の支援を行っています。

兵庫県地球温暖化防止活動推進員

地球温暖化対策の実践、普及啓発、情報提供等を目的とし、知事が委嘱した方々です。県内の10地域において、地域に根ざした普及啓発活動を推進しています。現在は第3期となる推進員339名(平成16年4月に委嘱)が活動しています。

ポイント!

- 兵庫県において、家庭部門からのCO₂排出量は約20%増加しています。
- 家庭における家電製品の使用に伴うCO₂排出量は全体の約39%を占めています。
- 私達が電気を節約することは、CO₂排出の削減に効果的です。

ポイント!

- 地球温暖化防止に関する国際的な取り決めである「京都議定書」が2005年発効されました。
- CO₂排出削減の国際的約束を履行するためには大きな努力が必要です。